



発行日 令和5年5月発行 第110号

発行元 社会医療法人 昴和会 内山病院 編集委員会

連絡先 鹿児島県阿久根市高松町2番地

TEL:0996-73-1551

FAX:0996-73-4636

Homepage <http://www.uchimt.com/>

E-mail uchimt@uchimt.com



巻 頭 言

巻頭言・・・P1

診療一口メモ・・・P2

部署紹介・・・P3

行事紹介・・・P3～4

委員会活動・・・P4

お知らせ・・・P4

編集後記・・・P5

小規模多機能ホーム昴和苑管理者 田上 ゆかり

～介護士～



1月は梅の花、4月になると桜、6月は紫陽花、8月は向日葵、12月は椿、季節の移り変わりと共に、季節を感じる草花が人の心を和ませてくれます。

郊外をドライブしていると、桜の季節、山々は、あちこちで緑の森影に白い花が目立つようになりました。一輪一輪の花は、見えなくても、その美しさは眼に入る。

この世に花の嫌いな人はいないと思うが、好き嫌いで表現できない何物かがあるからこそ、心を和ませてくれるのでありましょう。

介護において、心和む介護を如何に実践していけばよいのか、日々

悩ましい状況の中で利用者様と接しております。

心を和ませる介護とは、痒いところに手の届く介護だけではないと思う。物理的な介護は当然であるが、利用者の心の中に入り込むことが出来る介護が理想である。

しかし、介護士も人の子、ご機嫌な時もあれば、不機嫌な時だってある。身体の安定と精神の安定を保つことは、至難の業である。

日々の生活の中で、神様は、家庭環境・職場環境・人間関係あらゆる難問を与える。その難問をストレスとして受け止めるのか、それとも人生の通り道として受け止めるのかで、その人の心持ちは変わってくる。ストレスを抱えたまま介護するか、後者として心穏やかに介護にあたるのかで、利用者様の心の中に立ち入ることが出来るか、出来ないが決まるような気がします。

車椅子、認知症、寝たきり、褥瘡、万人が一度は通る道ではあるが、自分自身は、老後どんな道を辿るのか、どんな介護を求めているのか、どんな介護を受けたかったのか、振り返ることは出来ない。介護士としての自分の足跡が(人生)どのように付いたのか覗いてみたいものでもある。

自分自身の行動を垣間見ることは出来ないが、毎回訪問に出かけ、玄関を開けたとき、今日も元気でいらして良かったと安堵する。利用者様が何を自分に望んでいるのか。何をしてもらいたいのか肌で感じ、それを実行できる介護士でありたい。



肺は、肺胞というぶどうの房状の小さな袋がたくさん集まってできた臓器です。一般的に肺炎と呼ばれる病気は、主に細菌やウイルスなどによる感染が原因で、肺胞の中に炎症が起こります。これに対して、間質性肺炎は、肺胞の壁の部分である「間質」に炎症や線維化が起こる病気です。

呼吸により取り込まれた空気は気管・気管支を経て肺胞に送り込まれ、酸素は肺胞から間質を通り抜けた後に毛細血管に取り込まれます。間質性肺炎では間質に炎症が起こり、線維化により間質が厚く硬くなるため、酸素の取り込みがうまくいかなくなり、息切れ、特に動いた時の息切れがみられます。病気が進行すると広い範囲の肺胞間質に線維化が及ぶため、入浴や着替えといった軽い動作でも息切れを感じるようになり、日常生活に支障がでます。また、厚く硬くなった間質の刺激により咳もみられますが、肺胞の中で炎症が起こる一般的な肺炎とは異なり、痰を伴わない咳（空咳）がみられます。

間質性肺炎は、さまざまな原因で起こります。その中で最も多いのが、原因が不明な特発性間質性肺炎です。原因が特定できる間質性肺炎には、膠原病（関節リウマチ、全身性強皮症、皮膚筋炎／多発筋炎、シェーグレン症候群など）に伴う間質性肺炎、過敏性肺炎（鳥、カビ、化学物質などの“抗原”を反復して吸入したことによるアレルギー）、薬剤性間質性肺炎（治療薬の副作用、健康食品・サプリメント等による健康被害）、じん肺（無機粉じんなどを長期間吸入することで肺内に粉じんが沈着し、肺の線維化を引き起こす病気）などがあります。

特発性間質性肺炎は国の指定難病の1つで、さらにいくつかに分類されますが、その中で最も患者数が多く、重症な病気が特発性肺線維症です。日本における特発性肺線維症の患者数は約1万数千人とされ、高齢者、男性、喫煙者に発症しやすいことがわかっています。特発性肺線維症は最も治療が難しく、個人差はありますが、進行した“がん”と同じような経過や予後（どれぐらい生きられるか）をたどることもあります。

間質性肺炎の診断では聴診所見が非常に重要です。間質性肺炎では、肺の背中側の下方部分で特徴的な捻髪音（息をすったときに「バリバリバリ」というマジックテープをはがすような硬い音）が聞こえます。背中側で強く聞こえるので、背中での聴診が重要です。捻髪音が聞こえた場合には、間質性肺炎が存在する可能性が非常に高く、ときにレントゲン異常よりも先に捻髪音で間質性肺炎が発見されることもあります。

治療では、間質性肺炎の状況が、炎症が主体なのか、線維化が主体なのかを見極めることが重要です。どちらが主体かによって治療薬剤を選択します。

炎症が主体の場合には、ステロイドや免疫抑制剤を使用した抗炎症治療により、間質に起こった炎症を抑えます。

線維化が主体の場合には、抗線維化治療を行います。間質の線維化を引き起こす過剰なコラーゲンの増殖を抑えることで、病気の進行を遅らせることが期待されます。現在使用できる抗線維化薬には、ニンテダニブとピルフェニドンがあります。

薬剤以外の治療では、息苦しさの軽減や心身の機能を改善するために、呼吸リハビリテーションを行うことがあります。呼吸リハビリテーションは医療機関においてのみだけでなく、自宅でも継続して行うことが重要です。残念ながら病状が進行し酸素が取り込めずに酸素不足となった症例では、酸素吸入・在宅酸素療法を行うことがあります。特定の条件を満たした場合には、肺移植が検討されることもあります。

喫煙は、間質性肺炎の状態を悪化させたり、心臓病や癌などの合併症を引き起こしたりします。必ず禁煙することが重要です。

間質性肺炎は難解な疾患ですが、診断・治療も徐々に進歩しています。空咳・息切れがみられ、捻髪音を聴取する際には、お気軽にご相談ください。

部 署 紹 介

リハビリ室

管理者：本田知慎 中村美和

リハビリは理学療法士8名、作業療法士3名、言語聴覚士3名で業務を行っています。理学療法士は、運動機能が低下されている方々に対し、運動療法や温熱・電気・水・光線等の物理的手段を用いて基本動作能力の回復を図ります。

作業療法士は、障害のある方々に対し、人々の健康と幸福を促進するために、治療体操や生活に関連した応用動作の練習を行い「その人らしい」生活の獲得を目指します。言語聴覚士は、脳の病気や障害によって、失語症や構音障害となった方に残された機能の回復・維持また咀嚼、嚥下機能に障害を呈した方に対して嚥下機能改善を目指します。



行 事 紹 介

節分

内山病院デイケア 長島 美貴



2月3日、節分の日には内山病院デイケアでは、レクリエーションの時間を使って、豆まきを行いました。と言っても、鬼に向かって投げたのは豆ではなく、利用者様に作って頂いた新聞紙のボールです。

豆よりも投げやすく、職員扮する大迫力の鬼に向かって皆さん夢中になって新聞紙を投げられていました。世間ではコロナウィルスも徐々に減少傾向ですが、まだまだ油断はできません。マスク着用や換気等、感染対策を行いながらの実施となりましたが、今年もしっかり鬼退治(厄払い)ができました。鬼と一緒にコロナウィルスも早く退治できると良いですね。

お花見料理

令和5年4月1日（土曜日）「お花見メニュー」



ちらし寿司・鶏のみそつけ焼き・
あさりと菜の花のすまし汁・ごま豆腐・お菓子

毎年新年度始めの4月1日は、日本文化に馴染み深い花見を入院中でも食事を通して味わっていただけたらと思います。人気のちらし寿司や春が旬の菜の花、桜をモチーフにした和菓子を取り入れた「お花見メニュー」を実施いたしました。

今年度も入院患者様においしく喜んでいただける食事、また季節を感じられる料理を提供できるよう栄養課一同努めていきます。

委員会活動

医療機器・ガス安全管理委員会

臨床工学技士 外室 貴章

医療機器・ガス安全委員会は、各部署の医療機器の状況報告を行い、医療機器の使用状況・機器の破損・故障を把握して、機器の修理や新規購入を検討し対応しています。

当院では、医療機器保管庫でシリンジポンプ・輸液ポンプ・人工呼吸器を一元管理し、臨床工学技士が機器の保守点検・清掃を行い、各部署の委員が部署で使用している機器の日常点検を行っています。医療ガスについても同様に、各部署での医療機器委員による点検を実施し、異常時、早めに対処できるようにしています。

今後も医療機器の保守点検の実施と効率的な機器運用を常に責任を持って実施いきたいと考えております。

お知らせ

～訪問リハビリのご案内～

訪問リハビリでは、在宅での生活に不安や不自由を感じている方に対して、介護保険による訪問リハビリを行っています。当院にて業務経験のある理学療法士・言語聴覚士がご自宅へ訪問し、リハビリを実施しています。患者様により良いリハビリを提供し、在宅生活の継続を支援します。

～内山病院のデイケアの移行のご案内～

5月より内山病院のデイケア（通所リハビリ）は回生苑のデイケアと統合され、回生苑へ移行することになりました。今後ともよろしくお願い致します。

個人情報保護法により、早蕨掲載の写真及び名前については本人の同意を得ています。

基本理念

- 1 質の高い思いやりのある医療福祉の実現
- 2 地域に必要とされる医療福祉施設に育成・発展させる

基本方針

- 1 患者の立場に立った高齢者医療介護福祉施設の充実に積極的に寄与する
- 2 プライマリーケアを実践する中で、今までの実績の更なる積み重ねと時代の求めに応じた拡大を目指す
- 3 人材の育成
- 4 経営の安定化・事業の展開
- 5 品質管理（危機管理・安全管理・利用者の満足度向上）

患者の権利

- 1 患者様は、「平等で良質な医療を受ける権利」があります。
- 2 患者様は、「選択と自己決定の権利」があります。
- 3 患者様は、「個人の秘密保持・情報に関する権利」があります。
- 4 患者様は、「尊厳性の権利」があります。
- 5 患者様は、「安全が確保される権利」があります。

患者様の義務

- 1 患者様は、ご自身の健康に関する情報を提供する義務があります。
- 2 患者様は、病院のルールを守り、医療に参加する義務があります。
- 3 患者様は、他の患者様の医療を妨害しない義務があります。
- 4 患者様は、医療費を支払う義務があります。

編集後記

コロナの流行によりマスク生活を余儀なくされ、三密やソーシャルディスタンスと新しい言葉も出てきました。新しい生活様式に慣れてきていましたが、3月13日よりマスクの着用が緩和されました。早く以前の様な何の心配もない生活が待たれますね。今回、早蕨の原稿にご協力くださいました皆様感謝申し上げます。

鶴園まほ・長島美貴・牟禮凜夢・油木 翔子